

## 志賀原子力発電所 敷地内シームの調査に関する第1回評価 会合での指摘事項を踏まえた追加調査結果の提出について

平成26年7月4日  
北陸電力株式会社

当社は、志賀原子力発電所敷地内シームに関する追加調査の最終報告書を平成25年12月19日に原子力規制委員会に提出いたしました。その後、原子力規制庁により第1回評価会合（平成26年3月24日）での指摘事項が整理されたことを踏まえ、追加調査の対応状況をお知らせいたしました。（平成26年5月29日お知らせ済み）

今般、11項目にわたり実施してきた追加調査が概ね完了したことから、調査結果をとりまとめ、本日、原子力規制庁に提出いたしました。今回の追加調査では、「敷地内シームは、『将来活動する可能性のある断層等』ではない」「敷地内シームは、活動性及び連続性等からみて、周辺断層との関連性はない」とした、当社の最終報告書の主張を補強する結果が得られております。

当社は、今回の調査結果を含め、志賀原子力発電所の安全性について丁寧にご説明していくとともに、今後の原子力規制委員会による審査に適切に対応してまいります。

### 【第1回評価会合での指摘事項を踏まえて実施した主な追加調査の結果】

#### <S-1、S-6における岩盤と堆積物の境界に関する調査>

S-1、S-6のトレンチ箇所等において、肉眼観察に加えX線分析や薄片観察等の各種分析を行い、岩盤と堆積物の境界に関するデータを補強した上で、上載地層の詳細観察を実施。その結果、上載地層に変位・変形は認められず、S-1、S-6とも、少なくとも12~13万年前以降の活動は認められない。

#### <S-1北西部の活動性に関する調査>

志賀原子力発電所建設時に採取したS-1北西部のボーリングコアの追加観察を行った結果、シームの性状や運動方向について、これまでの調査で取得したS-1全体のデータと同様であり、S-1北西部だけが付随的に動いているとは考え難い。

以上